



Vol. 12

日本ウミスズメ類研究会 (Japan Alcid Society) 会報 1996年8月29日発行



## マダラウミスズメ調査についてのQ & A

前号でお知らせしたマダラウミスズメの調査結果等について、Q & A形式でまとめてみました。

### マダラウミスズメってどんな鳥？

マダラウミスズメはチドリ目ウミスズメ科に属する小型の海鳥です。ほとんどの海鳥が孤島や海近くの断崖に営巣するのに対し、マダラウミスズメは海からかなり内陸に入った老齢林の樹上に、単独で営巣する変わった習性を持っています。

分布は、アリューシャン列島を中心に、東はカナダやアメリカ沿岸、西は日本沿岸にいたる範囲です。太平洋の東側の個体群は基亜種 *Brachyramphus marmoratus marmoratus* とされ、西側の個体群は *Brachyramphus marmoratus perdix* という亜種として考えられてきました。この *perdix* のほうは、体が大きく、嘴がより長いのが特徴です。体重は *marmoratus* が220gであるのに対し、*perdix* は287gと、かなり重くなっています。また、羽衣にも違いが見られます。

このような形態的な違いに加え、近年の遺伝的な手法によって、両者が亜種としての関係ではなく、別種であるとの見解がなされるようになりました。

### なぜマダラウミスズメの調査をしたの？

マダラウミスズメ (*Brachyramphus marmoratus perdix*) は、日本ではこれまで小清水町藻琴山山麓でのみ繁殖が確認されており、それが唯一の繁殖確認となっています。しかし、発見者らの手記によれば、産卵場所は草地であり、卵は3個でした。岩の上などに営巣した例もあるものの、マダラウミスズメの多くはすでに述べたように老齢林の樹上に営巣することが多く、しかも卵は1つです。また、最近になって日本でのその卵を鑑定したアメリカの研究者によれば、この卵は明らかにマダラウミスズメのものとは異なっていることがわかりました。巣があったとされた付近で、「抱卵中」とされた成鳥も採集されてはいるものの、確実な証拠となるものはありません。

その一方で、繁殖に必要な老齢林は、日本だけでなくロシアでも大量に伐採されており、生態の解明もされないままに個体数は激減していると思われます。

今年度の調査は、日本でのマダラウミスズメの繁殖に関するなんらかの手がかりを得ることを目的としました。

## どんな人たちが調査をしたの？

調査は日本ウミスズメ類研究会とパシフィック・シーバード・グループが共同して行いました。

日本ウミスズメ類研究会は1993年に設立された海鳥研究者の連絡団体です。研究会では、1994年10月より（財）日本自然保護協会のP.N.ファンド助成を受け、『希少ウミスズメ類の現状と保護』に関する調査研究を続けてきました。

共同調査を行ったパシフィック・シーバード・グループ、PSGは、アメリカやカナダなど環太平洋の海鳥研究者で構成される大きな団体です。

今回、PSGから調査に参加したのは、マダラウミスズメ研究の第一人者であるKim Nelson（キム=ネルソン）さん、キムさんの夫であるWill Wright（ウィル=ライト）さん、そしてTom Hamer（トム=ヘイマー）さんです。さらに、海鳥研究者のLora Leschner（ローラ=レシュナー）さん、そしてウミスズメ研究で有名なAnthony Gaston（アンソニー=ガストン）さんも調査に加わりました。日本からは小野宏治（東邦大学理学部、日本ウミスズメ類研究会幹事、PSG日本海鳥保護委員会委員長）、福田佳弘（日本ウミスズメ類研究会幹事）、John Fries（ジョン=フリーズ、東邦大学理学部、PSG日本海鳥保護委員会委員長（小野と共同））をはじめ、日本ウミスズメ類研究会会員の佐藤美穂子、大槻都子、赤間剛夫のみなさんが参加しました。さらに、現地より松田光輝さん（知床自然センター研究員）、川崎康宏さんらが調査に加わり、総勢14名あまりで知床を中心にキャンプをしながら6月30日から7月6日までの約1週間、調査を続けました。

## どこでどんな調査をしたの？

調査地は、日本で唯一繁殖が確認されたとされている小清水町藻琴山、そして原生的な森林が比較的残っていると思われる知床半島です。知床では、現地の環境を下見しながら、半島の北側にあたるウトロ側で調査を行いました。

## どんな調査をしたの？

調査は、まず声を確認することからはじめます。日本側の亜種のマダラウミスズメがどん

な声で鳴くのか、アメリカ側の亜種のマダラウミスズメと似たような声なのかはまだわかっていませんが、調査者は事前にマダラウミスズメの声のテープを何度も聴き、声の特徴を覚えておきます。

この声は、巣に飛来するときなどによく聞かれます。ほかにも、マガモに似たような声で「グアグアグア…」と鳴くこともあります。

調査の時間帯は、公式な日の出時刻の約1時間前から日の出後1時間くらいまでです。今回は1時15分に起床、そして2時15分より約2時間から3時間、調査を行いました。

14人のグループを3チームに分け、海側や山側の見晴らしのいい地点に配置します。

調査地は、前日に入念な下見を行い、太い針葉樹のあるところやその飛来ルートに当たるようなところを選んでテープでマーキングしておきます。

現地に着いたチームは、道沿いにおよそ100m間隔にならび、声と姿による確認をしました。

## 調査結果は？

残念ながら、今回は調査期間が短いこともあって十分な確認はできませんでした。また、知床岬寄りのルシャ川一帯が、林道工事のために入れず、今後の可能性を残しました。

ただし、マダラウミスズメの調査に精通しているキムさんやトムさんによれば、同じ場所を時期や時間を変えて6度調査しても確認できず、7度目でやっと確認されたケースもあるとのことでした。

研究会では今後もさらに調査を続けていきたいと考えています。

(文責・小野宏治、インターネットのホームページで公開されているものより転載)



## 海鳥シンポジウムへの参加、ありがとうございました

7月13日に東邦大学にて行われた海鳥シンポジウムは、盛況のうちに終わりました。

当日は、アホウドリ研究でおなじみの長谷川博さんに、長年の調査結果をビデオやスライドを交えてお話しいただきました。また、ウミスズメの研究で著名なガストンさんには、カナダでの研究について、海鳥調査ボランティアの話も交えながらお話しいただきました。ガストンさんの講演は、黒沢令子さんに通訳していただきました。英語が不得意な我々にも十分に調査内容を理解することができて、とても充実したものとなりました。

関係者のみなさんに改めてお礼を申し上げるとともに、突然の通訳依頼にご快諾くださった黒沢さんに深く感謝いたします。

また、参加者のみなさんには、当日の進行に一部不手際がありましたこととお詫び申し上げます。



## Pacific Seabird Groupの大会日程

PSGの1997年度大会の日程が決まりました。

場所：アメリカ、オレゴン州、ポートランド      Marriott Hotel (Rose City)

日程： 1997年1月8日    レセプションなど

1月9～11日    口頭発表、ポスターセッションなど

1月11日    夜に、Banquet

1月12日    フィールドトリップ

なお、発表要旨の締め切りは10月1日、参加申し込みの締め切りは11月1日となっています。参加を希望される方は、早めに事務局までご連絡下さい。学会の詳しい案内が届きしだい、折り返しコピーをお送りします。

パシフィック・シーバード・グループ（PSG）は1972年に設立された環太平洋の海鳥研究者らで構成される団体です。年1回の大会のほか、年2回、会報『Pacific Seabirds』を発行しています。PSG内には日本海鳥保護委員会も設立され、私たちと共同で、さまざまな調査や保護活動を展開しています。なお、PSGの活動は随時会報で紹介していきます。

会費は年20ドル、学生の場合は13ドルです。ただ、毎年の送金の手間を考えると、生涯会員（600ドル）のほうが便利でしょう。

PSGへの入会方法は、事務局までお問い合わせ下さい。近日、インターネットのホームページにも、入会フォームを登録する予定です。

なお、事務局では、生涯会員に限り入会の代行手続きも行っています（その場合、送金為替の手数料を含め、郵便振込もしくは現金書留にて前金でいただきます）。



## 文献紹介

最新の文献より、海鳥に関係したものを抜粋しました。

- Ibis 最新号（138）から
- ・ Diving patterns in shags and cormorants (*Pharacrocorax*): tests of an optimal breathing model.
- ・ Site use and fidelity in the Common Guillemot *Uria aalge*.

- Energy expenditure, body-weight and foraging performance of Storm Petrels *Hydrobates pelagicus* breeding in artificial nesting chambers.
- The influence of food availability on the breeding effort and reproductive success of Arctic Skuas *Stercorarius parasiticus*.
- Behavioural and molecular evidence for specific status of light and dark morphs of the Herald Petrel *Pterodroma heraldica*.
- Effect of observer differences on abundance estimates of seabirds from ship-based strip transect surveys.
- The effects of flipper bands on adult survival rate and reproduction in the Royal Penguin, *Eudyptes schlegeli*.

以下は、研究会への寄贈文献です。どうもありがとうございました。

- 風間辰夫. 1996. 冬期、新潟県海岸に衰弱漂着したケイマフリ *Cephus carbo*. 山階鳥研報, 28 : 45-46.

タイトルだけでなく、文献の内容紹介も、今後行っていきたいと考えています。

なお、文献は事務局で閲覧できます（事前にご連絡下さい）。著作上、コピーサービスはできませんが、内容紹介をお手伝いいただける方に限り、資料として要旨をコピーいたします。



## 会計報告

会の設立（1994年10月）より現在に至るまでの、会の財政状況についてご報告します。会では会員の方々より、「連絡費」として1000円以上を集めております。これは、1000円で一年、といった年会費制ではなく、会の財政の許す限り「連絡をとり続ける」という会の運営方針によるものです。したがって、連絡費未納の方でも、退会の意志表明がない限り、これまで会報を送り続けてきました。

会の収入源は、こうした連絡費の他に、日本鳥学会大会でのオークション売り上げや、寄付、Tシャツの売り上げ収入などがあります。

いっぽう、支出はおもに会報の印刷と郵送によるものです。

その内訳はつぎのとおりです（1996年7月15日現在）。

-----

| 費目        | 円      | 内訳                 |
|-----------|--------|--------------------|
| 寄付・売り上げ収入 | 341064 | Tシャツや報告書の売り上げ、寄付など |
| 連絡費収入     | 76000  | 会員の連絡費             |
| 郵送費       | 61798  | 切手代、封筒代など          |
| コピー費      | 23510  | 会報印刷               |
| その他支出     | 150630 | Tシャツ制作原価、振り込み費など   |
| 会の残金      | 181126 |                    |

以上のように、現在の会の残高は181126円となっています。

連絡費収入と、会報の発送にかかる費用（郵送費＋コピー費）を見てもらうとおわかりですが、会報の発送にかかる費用が連絡費を上回っています。これは、言い換えれば、**寄付やTシャツの売り上げがなければ会の運営が維持できない**、ということです。

どうぞ会の財政事情をご理解の上、懷に余裕のある方は、連絡費をおさめていただきますよう、お願いいたします。

口座番号 00170-1-580492

口座名 日本ウミスズメ類研究会

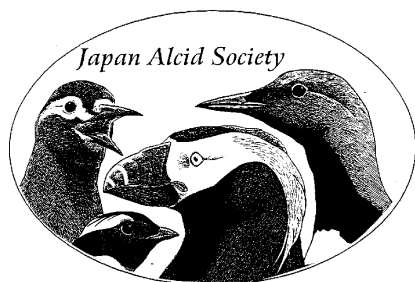
なお、会の設立当初の頃から大槻都子さんに会計をお願いしていましたが、このたび都合により会計職を退任されることとなりました。長い間、どうもごくろうさまでした。

当面は、入会受け付け、会計内容の問い合わせ等はすべて事務局で行いますので、お間違いないようお願いいたします。また、従来の振込口座（口座番号 10500-4-5304491、口座名

日本ウミスズメ類研究会）を閉鎖いたしますので、振り込みは必ず新しい口座のほうへお願いいたします。

（会計代行・小野宏治）

7月以降、何人かの方々よりご寄付いただきました。どうもありがとうございました。お名前は次号以降の会報にてご紹介いたします。



## 日本ウミスズメ類研究会

事務局 〒274 船橋市三山2-2-1 東邦大・理・海洋生物内

Phone: 0474-72-5235 / Fax: 0474-72-5236

E-Mail: kojiono@gol.com,

hcb00437@niftyserve.or.jp

URL <http://www2.gol.com/users/kojiono/>

郵便振替

00170-1-580492

口座名

日本ウミスズメ類研究会

事務局の人手不足のため、入会手続きや会報発行が、今後大幅に遅れることがあります。現在、組織の改革を検討中ですので、しばらくの間ご容赦下さい。